

# 市議会だより

DAISEN CITY COUNCIL NEWS

## 大仙“農”担う若者たち!



収穫間近のそら豆畑で



トマトの脇芽かき



メロン苗に水やり



### 西部新規就農者研修生の皆さん

西部新規就農者研修施設（強首）では畑24アール、ビニールハウス4棟に、そら豆・キュウリ・アスパラガス・枝豆・スイートコーン・鑑賞菊などを作っています。メロン苗への水やり、トマトの脇芽かき作業に汗を流しています。見事なメロン、トマトが育つことでしょう。

### 内 容

### CONTENTS

■ 第2回定例会の概要	2～3
■ 一般質問	4～7
■ 委員会審査のあらまし	8～9
■ 政務活動費	10
■ 議会のうごき	11
■ 編集後記 ほか	12

# 第2回定例会

第2回定例会は、5月31日から6月20日までの21日間の会期で行われました。

本会議1日目に、老松市長の市政報告、市当局提出の人事案2件、単行案1件を原案可決しました。

本会議4日目に、市当局提出の条例案4件、単行案1件、補正予算案2件をそれぞれ原案可決したほか、請願2件、陳情3件のうち2件を採択、1件を継続審査とし、意見書案2件を原案可決しました。

一般質問は、2日間にわたって7人の議員が市政全般について、市当局に質問しました。



本会議4日目 起立採決（請願第7号）

※第2回定例会の録画映像は、大仙市ホームページの議会のページでご覧いただけます  
 〈市議会トップページ → 議会中継（映像アーカイブズ） → 平成30年第2回定例会 本会議〉

## 人事案

- ▼教育委員会教育長の任命について  
【全会一致で同意】  
吉川正一氏（大曲日の出町・再任）
- ▼教育委員会委員の任命について  
【全会一致で同意】  
風登森一氏（板見内・再任）

## 条例案

- ▼大仙市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について【全会一致で可決】  
放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）の運営基準が改正されたことに伴い、放課後児童支援員の資格要件が見直されました。

## 単行案

- ▼中仙公民館清水分館新築（建築）工事請負契約の締結について【全会一致で可決】  
1億7128万8千円で、荒屋鋪建設・高吉建設特定建設工事共同企業体と工事請負契約を締結することを議決しました。

## 補正予算

- ▼平成30年度大仙市一般会計補正予算（第1号）【全会一致で可決】  
歳入歳出予算の総額にそれぞれ7億2290万4千円を追加し、補正後の総額は454億6410万4千円となりました。

### 主なもの

- ・移住・定住推進事業費 595万5千円
- ・インバウンド観光事業費 476万2千円
- ・通学路歩道整備事業費 1009万8千円
- ・岩瀬・湯野沢地区宅地造成事業費 9701万2千円
- ・道路橋りょう災害復旧事業費（単独分） 1418万2千円
- ・河川災害復旧事業費（単独分） 1760万5千円
- ・道路橋りょう災害復旧事業費（補助分） 3528万3千円
- ・大曲中学校水泳プール改築事業費 8538万8千円

■災害復旧事業発注状況  
平成30年6月30日現在

区分	全体事業			29年度～30年度（発注）			30年度（発注計画）		
	件数	箇所数	工事費（千円）	件数	箇所数	工事費（千円）	件数	箇所数	工事費（千円）
国庫災害補助事業	81	177	1,921,084	54	124	1,150,402	27	53	770,682
県災害補助事業	10	10	63,664	8	8	48,587	2	2	15,077
合計	91	187	1,984,748	62	132	1,198,989	29	55	785,759

▼平成30年度大仙市一般会計補正予算（第2号）【全会一致で可決】  
歳入歳出予算の総額にそれぞれ2億1466万9千円を追加し、補正後の総額は456億7877万3千円となりました。

5月18日から19日の大雨災害に係る応急対策費や被災施設等復旧経費などの補正です。

請願

▼富士見町消雪組合施設改修工事に関する請願書【全会一致で採択】

▼中仙公民館鶯野分館体育館の改築に関する請願【継続審査】

▼多目的人工芝グラウンド整備を求める請願書【賛成多数で採択】

陳情

▼地方財政の充実・強化を求める意見書提出についての陳情書【全会一致で採択】

▼教職員定数改善と義務教育費国庫負担割合2分の1復元をはかるための、2019年度政府予算に係る意見書採択の陳情について【全会一致で採択】

第2回定例会賛否一覧

※議案等について、賛成、反対の双方があった場合のみ、表示しています。

議案等名	議決結果	だいせんの会					大地の会					新政会				共産党		市民クラブ		公明党		創生会		地域会						
		高橋敏英	佐藤芳雄	古谷武美	橋村誠	児玉裕一	高橋徳久	石塚柏	鎌田正	高橋幸晴	大山利吉	佐藤育男	後藤健	金谷道男	橋本五郎	小松栄治	佐藤清吉	渡邊秀俊	茂木隆	小山緑郎	佐藤文子	藤田和久	佐藤隆盛	三浦常男	秩父博樹	挽野利恵	富岡喜芳	本間輝男	小笠原昌作	
請願第7号 多目的人工芝グラウンド整備を求める請願書	採 択	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○

賛成者は○とし、反対者は●とします。議長は採決に加わらないため、斜線としています。

第2回臨時会

第2回臨時会が5月2日に招集され、市当局提出の専決処分報告4件を承認、単行案4件を原案可決しました。

▼財産の取得について【全会一致で可決】

・消防用軽四輪駆動小型動力ポンプ付積載車5台。取得金額は2970万円  
・西仙北地域、太田地域の積載車が更新されます。

・除雪機械（ロータリ除雪車2・2メートル級）1台。取得金額は3823万2千円で、西仙北地域に配備します。

・除雪機械（除雪ドーザ14トン級）1台。取得金額は1778万7600円で、西仙北地域に配備します。

・除雪機械（小形除雪車1・3メートル級）1台。取得金額は2008万8千円で、太田地域に配備します。



西仙北地域に配備されるものと同型のロータリ除雪車



小松 栄治 議員（新政会）

**Q** 事務事業の点検・見直しの内容は

**A** 廃止・縮減・統廃合など、財務体質改善に向けた取り組みを進める

**質問** 事務事業の点検・見直しの具体的な内容と、来年度以降の財政健全化計画について伺う。

**市長** 全事務事業の総点検による廃止・縮減・統廃合など、財務体質改善に向けた取り組みを進め、限りある財源を効果的に配分し、事業の選択に努めていく。財政健全化計画は、国の動向を注視しながら、平成32年度からの後期実施計画の策定に併せ、財政推計の見直しを行う。

**質問** 公共施設の老朽化で維持管理費が多額になり、運営がますます厳しくなる。立地適正化計画と合わせ、公共施設等総合管理計画を見直す考えはないか。

**市長** それぞれの施設で、しっかりとした方向性を明確に定め、今後のまちづくりの基本となる立地適正化計画や都市計画、新たに検討しなければならない配置計画などとの整合を図っていく。

◆働き方改革に、どのように取り組むのか

**質問** 高度プロフェッショナル制度を盛り込んだ、働き方改革関連法案が成立した場合、市ではどのように取り組んでいくのか。

**総務部長** 市内事業者の導入による労使間トラブルが発生しないよう、商工団体やハローワークなどの関係機関と連携し、制度の周知を図っていく。

**質問** 大仙市職員の勤務時間や時間外勤務の上限時間数、年間手当の額は。

**総務部長** 勤務時間は、昨年度の勤務日数で算出すると1人当たり年間1,891時間。年間の時間外手当の額は、29年度で1億1,611万円である。なお、時間外勤務時間数に上限は設けていない。

**質問** 一定の休息时间（勤務間インターバル制度）を取り入れる考えはないか。

**総務部長** 働き方改革の一環として、今後の検討課題とさせていただきたい。

このほか、市の活性化・健康の取り組み方について質問しました。



金谷 道男 議員（大地の会）

**Q** 空き家所有者に、維持管理・活用等の意向をアンケート調査したらどうか

**A** 所有者の管理意識の醸成や活用の掘り起し効果が期待でき、実施を検討

**質問** 市で把握している空き家等の所有者に固定資産税納入通知を送るときに、空き家の今後の維持管理の意向をアンケート調査し、空き家利活用の促進に役立ててはどうか。

**佐藤副市長** 現在、大仙市には1,090件の空き家がある。市ではこれまで、危険度の高い空き家は、大仙市空き家等の適正管理に関する条例、および空き家等対策の推進に関する特別措置法により、所有者への解体を含めた危険防止措置の助言・指導勧告を行っている。

一方、空き家の利活用の相談は、ほとんどが賃貸希望であり、売却希望の所有者と意向の乖離がある空き家の利活用については、宅地建物取引業協会等民間との連携・協力を図りながら推進するとともに、アンケート調査は、空き家所有者の管理に対する意識の醸成や、自主的な解体の検討、移住希望者

へ提供できる空き家の掘り起こしなどの効果が期待できることから、実施を検討したい。





藤田 和久 議員（日本共産党）

**Q** 給付型奨学金制度の創設を求める

**A** 国の制度を注視しつつ、対処していく

**質問** ふるさと就職者奨学金償還免除制度の内容は。また、利用者数実績は。

**教育長** 平成23年3月から平成27年3月までに4年生大学を卒業した奨学生が、5年間本市に住居登録し、県内に本社を置く事業所に就職するか、自営業の場合は全償還金額の半額以上を償還した場合、残りが免除される。この要件を満たした方は、平成29年度が最初で5人、平成30年度は3人の見込みである。

**質問** ふるさと就職者奨学金償還免除制度を継続すべきと考えるが。

**教育長** 秋田県では人口減少・定住対策の一つとして、平成29年度以降に県内に就職した方に、奨学金の償還金の一部を助成する制度を、今年度からスタートさせた。この制度の状況等を注視しながら、市の今後の検討課題としたい。

**質問** 低所得者層を対象に、給付型奨学金制度を導入すべきだ。

**教育長** 国の制度を注視しながら、慎重に対処してまいりたい。

◆保育士確保のため、各種支援制度の創設を

**質問** 新卒者の保育士を確保するための取り組みを伺う。

**佐藤副市長** 就労前、就労中、就労後の三つの支援を進め、保育士確保に努めてきたが、官民一体での対策が、これまで以上に必要と考えている。県が5月に立ち上げ、当市も参加予定の秋田県待機児童対策協議会で、新卒者の保育士の確保策について、具体的な対策の検討を進めてまいりたい。

**質問** 保育士確保対策として、専任者の配置や給付型奨学金などの手厚い支援が必要ではないか。

**佐藤副市長** 専任者の配置については、保育士確保対策の担当職員がおり、保育士の採用元である各法人と連携し、今後も対策を強力で推進していく。また、市内の保育所に就業した保育士への「奨学金返還助成事業」や、求職活動中の市民への資格取得応援事業などにより、保育士不足解消に努めているので、給付型奨学金制度も含め、これらの事業効果とニーズを検証していく。



高橋 徳久 議員（だいせんの会）

**Q** 花火シアターの観覧料を徴収してはどうか

**A** 観覧料は頂かない施設としてスタート予定

**質問** 花火シアターの上映形式は、どうなっているのか。

**市長** 通常の花火映像にドローンで撮影した花火の映像を組み合わせ、一般的な花火鑑賞では見ることのできない花火を、前方・左右・上方の4K4面で楽しむことができる「体感花火」（6分）と、花火師の花火と向き合う姿勢や「大曲の花火」に対する思いなどに焦点を当て、その職人技を高精細な映像で表現した「花火師の仕事」（11分）の2本のプログラムを用意している。繁忙期には上映開始時刻を設定して係員が上映を開始し、閑散期には来館者自身のボタン操作により上映を開始するなど、さまざまな状況に適した対応をしていく。また、40人程度が入室可能で、椅子のほか、前方に敷席をイメージした座席を配置して、より一層の臨場感を味わっていただく。

**質問** 財政面から考えると、効果の薄い事業の見直しや無駄な支出を抑えることは重要だが、併せて収益を図ることも重要と考える。他の自治体が運営する施設では、減免措置を設けながら入場料等を徴収し、維持管理費に充当していることが見受けられる。生涯学習施設としての位置付け、また、収集した花火資料等の中に寄贈された物もあることから、入館料は無料として展示品を見学できるとしながらも、シアターに関しては減免措置を設けながら、観光客等から観覧料を徴収する方式は考えられないか。「お金を頂く」ということが、逆に施設の魅力や価値を上げることにつながるとともに、提供する側のサービス向上にも結び付くと思うがいかがか。

**市長** 本資料館は市民に開かれた生涯学習施設として位置付けられているほか、集客により、花火通り商店街等への経済的効果も担っている。これを踏まえ、多くの方が何度でも気軽に訪れることができ、いつでも大曲の花火の魅力に触れることによって、実際の四季の大曲の花火への集客につながる資料館となるよう、観覧料を頂かない施設としてスタートすることとした。



秩父 博樹 議員（公明党）

**Q** 建設業の週休2日を目指した取り組みは

**A** 受注者側の意見も伺いながら、他自治体の動向を注視

**質問** 建設業の週休2日を目指した取り組みについては、国や県との協議の場などを通じて検討されていくものと思うが、大仙市発注の工事についてはどのように考えているのか。

**市長** 国では平成29年度から、週休2日の確保に取り組む工事で、経費を割り増し計上することを試行しているほか、県では完全週休2日制モデル工事として、昨年度、土木工事12件、うち仙北地域振興局管内で3件が実施されており、今年度は全県で、24件のモデル工事を発注予定と伺っている。市としては、その必要性は認識しているものの、実施に当たっては、降雪などの気象条件の影響により、余裕をもった工期の確保が図れない恐れがあることや、週休状況の確認をどのように確実に行うかなど、解決すべき点も多いと考えている。受注者側の意見も伺いながら、試みの段階にある国や県、また、他自



治体の動向を注視していく。

**質問** 建設業の担い手不足は深刻な問題となっている中、魅力ある職場環境づくりが求められており、後押ししていく施策の充実が必要と考えるが。

**市長** 大仙市人材獲得応援補助金制度を平成29年度から設けている。平成30年度は企業の多様なニーズに対応するため、上限額を40万円にするなど、制度の見直しと拡充を行っている。今後も建設業の担い手不足問題解決の一助になるよう制度の周知に努め、活用を促すとともに、社会情勢や企業ニーズを捉えて制度の見直しを行っていく。

※このほか、高齢者の地域コミュニティ活性化の更なる充実及び健康寿命の延伸に資する取り組み、中小企業の設備投資を促す制度について質問しました。



挽野 利恵 議員（公明党）

**Q** 今後の女性管理職登用への取り組みは

**A** 現在の水準の維持・向上に努めていく

**質問** 大仙市特定事業主行動計画において、市職員の管理職における女性の割合の数値目標はクリアしているが、これからの取り組みと、政治分野における男女共同参画推進法について、市では今後どのような取り組みをしていくのか伺う。

**西山副市長** 市職員の管理職における女性の割合については、次世代育成支援対策推進法、および女性の職業生活における活躍の推進に関する法律に基づき、職場を挙げて支援する環境を整備するための「大仙市特定事業主行動計画」を策定し、平成31年度までに、女性管理職の割合を20%とすることを目標としている。この目標に対し、平成29年度20.6%、平成30年度21.1%と既に目標を達成しているが、今後もこの水準の維持・向上に努めていく。

政治分野における男女共同参画推進法については、平成27年3月に策定した第2次男女共同参画プ

ランで、審議会や委員会等への積極的な女性登用、各分野での女性リーダーの人材育成を推進している。

◆中学校の部活動の状況は

**質問** 中学生にとって部活動は、成長発達段階において、心身共に大きな影響を及ぼすものであるが、大仙市における部活動の現状と、教育委員会ではどのような取り組みをしているのか伺う。

**教育指導部長** 本市における部活動の時間は、秋田県とほぼ同様で、平日2時間30分程度、土日で4時間程度の練習を行っており、全国と比較して平日30分、土日1時間ほど、長くなっている。平日に1日以上以上の休養日を設けている部活は4分の1程度、約半数の部活は土日のいずれかを休養日としている。大会前には練習時間が長くなり、また、休日に練習試合等が入るため、土日の休養が取れなくなる傾向にある。市教育委員会では、国や県のガイドライン等に準じて対応するよう各校に依頼し、策定した「平成30年度教職員の業務改善推進計画」においても、適切な活動時間や休養日を設定するよう取り組みを進めている。今後、国や県の動きを受け、運動部・文化部を含めた市の部活動ガイドラインを策定し、子どもの心身の健康に十分配慮した部活動になるよう、各校に働きかけていく。



佐藤 文子 議員 (日本共産党)

**Q** 国保会計への基準外繰入を継続し、増税を回避すべき

**A** 現行の国保税水準の維持に備えてまいりたい

**質問** 国保の都道府県化の「基準外繰入解消」が国保税の引き上げとならないよう、今後とも一般会計からの基準外繰入を行い、負担増を回避するよう求めるが見解を伺う。

**市民部長** 保有する財政調整基金を運用するほか、一定の基金残高を保持し、現行の国保税水準の維持に備えてまいりたい。

**質問** 国保税の子ども均等割軽減について、国の制度実現が図れるよう、当市で先駆けて実施するよう求めるが見解を伺う。

**市民部長** 子ども均等割への免除制度導入は、その負担を他の保険者、あるいは市民全体で負わなければならない。国が責任を負う形での制度が望ましく、県と協力し、国に要望してまいりたい。

◆人口ビジョンの具体化を明確にし、精力的に推進を図るべき

**質問** 少子化・子育て対策について、人口ビジョンに掲げている自然減の抑制では、中長期の合計特殊出生率を2.07へと到達することが必要とされており、抜本的・具体的推進が求められる。子育て支援策、移住・定住・雇用対策の現状と課題を整理し、何をいつまでやるのか人口ビジョンの具体化を明確にし、精力的に推進を図るべきと考えるが。

**市長** 人口ビジョンを踏まえて策定した総合戦略に定めた施策の効果が表れるまでは一定期間を要すると考えており、まずはその取り組みを着実に実施するとともに、計画の見直しを図りながら、人口減少の抑制に努めていく。

**質問** 学校給食の無料化を改めて求めるが、見解を伺う。

**教育長** 無料化は、少子化対策の効果の程度や財源の確保、および市の施策全体の枠組みの中で判断すべきと捉えている。



## 大仙市議会「市政懇談会」を開催しました

6月25日～29日までの5日間、大仙市議会「市政懇談会」を開催しました。議員が5班編成で市内10カ所に出向き、議会の活動状況や平成30年度予算について報告し、市民の皆さまからは、たくさんのご意見・ご提言をいただきました。詳細については、後日、市議会だより第54号でお知らせいたします。



南外地域での市政懇談会

市政懇談会への出席者数

開催日	場 所	人 数
6月25日(月)	南外コミュニティセンター	26人
	はびねす大仙	15人
6月26日(火)	内小友公民館	5人
	角間川公民館	11人
6月27日(水)	神岡福祉センター	20人
	中仙農村環境改善センター	19人
6月28日(木)	西仙北支所	45人
	協和支所	28人
6月29日(金)	おおたコミュニティプラザ	24人
	史跡の里せんぼく さくまる館	9人
計		202人

## 企画産業常任委員会

単行案1件、補正予算案2件を審査しました。

### ●辺地の対象となる地区は？

【問】大仙市に辺地の対象となる地区は、大神成地区のほかにもあるのか。

【答】同じ中仙地域に栗沢辺地があり、昨年、市道の整備が完了している。今年度は大神成辺地のみで、市では現在28地域が指定されている。

### ●移住・定住推進事業については？

【問】主に、大仙市のどの地域に移住してきているのか。また、なぜその地域が多いのか。

【答】住宅支援については、中仙地域が多くなっている。その中で、配偶者の実家があるというケースが2件あった。また、賃貸借住居に対する支援については、大曲地域が多くなっている。

### ●外国人観光客数の動向は？

【問】大仙市における外国人観光客数の動向については、どのようになっているのか。

【答】宿泊者数として、平成29年度で3,359人が市内に宿泊している。平成28年度と比較すると約1,100人増加しており、年々増えている状況にある。



### ●災害復旧事業の中にある借上料とは？

【問】災害復旧事業費の中にある借上料は、重機の借上料のことか。

【答】重機を借り上げ、土砂や流木等の除去を行い、早急に復旧作業を行っている。

## 総務民生常任委員会

条例案3件、補正予算案2件、陳情1件を審査しました。

### ●市民への周知は？

【問】戊辰戦争終結150年戦没者慰霊について、協和地域では佐土原との交流で知っている方が多いと思うが、もっと広く市民にこの事業のことを周知してはどうか。

【答】明治150年関連事業で、アーカイブズでは戊辰戦争関係の企画展示、旧池田氏庭園米蔵では、錦の御旗の展示を行うことなどを通して、市民にできるだけ周知をしていきたい。

### ●なぜ補正予算なのか？

【問】太田診療所の年間の利用者は何人か。

【答】ここ2、3年は1日当たり70人から75人、年間で1万7千人から1万8千人で推移している。

【問】太田診療所の空調設備の改修工事費について当初予算ではなく、今回の補正で計上した理由はなにか。

【答】実施設計の作成期限が2月であったことから当初予算編成には間に合わず、設計後工事価格が確定した段階で予算措置とし、床暖房があるので、今年の冬には間に合わせたいということで、6月補正に計上したものである。

### ●災害対応に経験は生かされた？

【問】5月18日・19日の大雨による水害対応で時間外手当が支給された人数は本庁、支所で何人か。また、災害対応には昨年の経験は生かされたと考えているか。

【答】時間外手当支給者は本庁で326人、支所で240人である。災害対応については昨年の経験があり、避難所開設、避難勧告等も速やかにできたと考えている。

## 建設水道常任委員会

補正予算案2件、請願1件を審査しました。

※質疑・討論がなく、全会一致で可決・採択されましたので、主な内容や審査過程について報告します。

●「橋りょう維持費」では、姫神橋（大曲地域）でコンクリートの剥離が発見され、橋の下が公園の敷地であることから、コンクリートの剥離による落下の防止のために対策工事を行います。「橋りょう長寿命化対策費」では、丸子橋（大曲地域）、平和橋（神岡地域）の防水・防錆工・補強工事を行います。

●「岩瀬・湯野沢地区宅地造成事業費」では、国土交通省が昨年の洪水被害の発生により雄物川中流部改修事業に着手することから、家屋の移転を余儀なくされた11戸の宅地造成を行います。

●「災害復旧工事事業」では、協和地域39カ所、南外地域10カ所の道路復旧工事を行います。「地滑り調査及び対策工事事業」では、協和地域の宮田又線で発生した地滑りの対策工事を行います。「河川の復旧工事」では、神岡地域3カ所、西仙北地域9カ所、南外地域4カ所を行います。

●富士見町（西仙北地域）消雪組合施設改修工事に関する請願は、設置から34年経過し、老朽化が進んでいることから、設備の改修が必要との意見がありました。ただし、大仙市では合併前に実施した消雪施設については、市から管理組合に移管することを前提に改修工事を進めているので、こうした条件を前提に、願意を妥当として採択しました。



現場視察

## 教育福祉常任委員会

条例案1件、補正予算案1件、請願2件、陳情1件を審査しました。

### ●放課後児童支援員は、どのような方々か？

【問】現在、放課後児童支援員として従事しているのは、どのような方々か。

【答】保育士の資格を持っている方が26名、高等学校を卒業して児童福祉事業に2年以上勤務されている方が70名、教員免許を持っている方が14名の合わせて110名、そのほかに資格を有しない補助員の方が40名ほど従事している。

### ●冬期間の水は？

【問】大曲中学校の水泳プールを改修するが、冬期間水を張ったままなのか、抜くことになるのか。

【答】浄水機能を持ったプールであり、冬期間も水は張ったままになる。

### ●花火伝統文化継承資料館の年間来場者目標数は？

【問】年間来場者3万3千人は開館初年度の目標か、あるいは将来的な目標か。

【答】初年度の目標として設定した来場者数であるが、このペースを保っていきたい。

【問】花火映像の製作ということで1千万円ほどの補正となっているが、毎年この規模の予算を組むことになるのか。

【答】今回は開館ということで「4K4面」という特殊な撮影のため、高額となっている。今後も節目の記念大会等で撮影したいと考えているが、来年度以降は10分の1ぐらいの予算となる。



はなび・シアター

# 平成29年度 政務活動費会派別収支状況

- 政務活動費は会派ごとに交付されており、交付額は1人当たり月15,000円です。
- 収支の内容は毎年度議長に報告され、残額がある場合は市に返還することになっております。また、不足する場合は、不足分について自己負担としております。
- 平成29年度は、任期満了に伴う議員選挙があったため、前期・後期に分けて交付されております。
- 改選後の後期分は、新たに会派が結成された日が月の初日の場合はその月分から、月の途中の場合は翌月分からの交付額となります。
- 市民の方ならどなたでも閲覧できますので、詳しくは議会事務局までお問い合わせください。
- 今後、領収書もホームページで公開予定です。

## 【前期分 平成29年4月～平成29年9月】

(単位:円)

項目	会派名 大地・公明の会 (12人)	新政会 (6人)	だいせんの会 (5人→6人)	日本共産党 (2人)	市民クラブ (1人→2人)
会派への交付額	1,080,000	540,000	525,000	180,000	165,000
支出額	545,857	380,460	97,730	58,908	126,820
内訳	調査研究費		377,970		125,990
	研修費				
	広報費	195,457		97,730	33,908
	広聴費				
	要請・陳情費				
	会議費				
	資料作成費				
	資料購入費				25,000
	その他の経費	350,400	2,490		
返還額	534,143	159,540	427,270	121,092	38,180

※「だいせんの会」と「市民クラブ」は、4月途中に1名ずつ増員したことから、翌月の5月分からの交付額が増額されております。

## 【後期分 平成29年10月～平成30年3月】

(単位:円)

項目	会派名 大地の会 (9人→7人→6人)	新政会 (6人)	だいせんの会 (6人→7人)	日本共産党 (2人)	市民クラブ (2人)	公明党 (2人)	創生会 (2人)	地域住民の会 (1人)	
会派への交付額	600,000	540,000	600,000	180,000	180,000	180,000	150,000	90,000	
支出額	564,120	515,584	719,852	85,044	171,862	188,040	171,862	85,932	
内訳	調査研究費	559,620	512,312	714,460		170,771	186,540	170,771	85,386
	研修費								
	広報費				85,044				
	広聴費								
	要請・陳情費								
	会議費								
	資料作成費								
	資料購入費								
	その他の経費	4,500	3,272	5,392		1,091	1,500	1,091	546
返還額	60,000	24,416	7,235	94,956	8,138	0	0	4,068	

※「大地の会」は、10月途中で2名、11月途中で1名脱会したことから、翌月分からの交付額が減額されております。退会者分が返還となっております。

※「だいせんの会」は、11月途中で1名増員したことから、翌月分からの交付額が増額されております。1名の残額があったため返還となっております。

※「創生会」は、10月途中で結成されたため、11月分からの交付額となっております。

### 【政務活動費の項目解説】 (支出のあったもの)

- ・ 調査研究費：市の事務、地方行財政等に関する調査研究及び調査委託に関する経費
- ・ 広報費：活動、市政について住民に報告するために要する経費
- ・ その他の経費：内訳に記載以外の経費で、調査研究・その他の活動に必要な諸費

**4月**

- 2日 広報広聴常任委員会
- 16日 広報広聴常任委員会
- 27日 議会運営委員会

**5月**

- 2日 第2回臨時会  
会派代表者会議  
議会改革推進会議
- 24日 議会運営委員会
- 25日 企画産業常任委員会「所管事務調査」
- 30日 企画産業常任委員会協議会・所管事務調査  
建設水道常任委員会協議会
- 31日 第2回定例会（第1日）  
教育福祉常任委員会審査  
広報広聴常任委員会  
議員説明会  
議員全員協議会

**6月**

- 11日 第2回定例会（第2日）  
議会運営委員会
- 12日 第2回定例会（第3日）
- 13日 各常任委員会審査（建設水道除く）  
企画産業常任委員会協議会  
教育福祉常任委員会「所管事務調査」
- 14日 建設水道常任委員会審査・所管事務調査
- 18日 議会運営委員会
- 20日 第2回定例会（第4日）  
議員説明会
- 25日 市政懇談会（南外地域・大曲地域）
- 26日 市政懇談会（内小友地区・角間川地区）
- 27日 市政懇談会（神岡地域・中仙地域）
- 28日 市政懇談会（西仙北地域・協和地域）
- 29日 市政懇談会（太田地域・仙北地域）

# ようこそ 大仙市へ

行政視察の受け入れ状況をお知らせします。

**〔4月〕**

- 25日 茨城県日立市議会  
・道の駅「なかせん」について

**〔5月〕**

- 29日 沖縄県うるま市議会  
・学力向上の取り組みについて

**〔7月〕**

- 3日 神奈川県大井町議会  
・小中学校における学力向上についての取り組み
- 3日 栃木県真岡市議会【※茂木議長出席】  
・市街地再開発事業について
- 4日 福島県郡山市議会  
・公文書館の設置について
- 4日 愛知県一宮市議会  
・学校給食センター「スマイルランチ」について
- 5日 神奈川県茅ヶ崎市議会  
・小・中学校における教育の取り組みについて
- 11日 青森県つがる市議会【※茂木議長出席】  
・農地の集積及び農業法人化等の取り組みについて  
・複合経営及び6次産業化の推進について  
・労働力不足対策について

## 9月定例会日程のお知らせ

- 8月28日(火)** 本会議第1日（市政報告、議案等上程）
- 9月6日(木)** 本会議第2日（一般質問）
- 7日(金)** 本会議第3日  
（一般質問・議案質疑、委員会付託）
- 10日(月)・11日(火)** 常任委員会審査
- 18日(火)** 本会議第4日  
（委員長報告、質疑、討論、表決）

※現時点での予定であり、変更される場合があります。変更内容は随時、議会ホームページでご案内しています。

**議長交際費（4月1日～6月30日）**

項目	件数	金額
予算額		900,000円
支出額	31件	132,116円
内訳	弔慰	1件 10,000円
	慶祝	24件 107,000円
	協賛	6件 15,116円
予算残額		767,884円

# 4名の議員に永年勤続者表彰

5月30日に東京国際フォーラムで開催された「全国市議会議長会 第94回定期総会」で、高橋幸晴議員、佐藤隆盛議員、小松栄治議員、佐藤清吉議員が在職15年以上の功勞により表彰を受けられ、第2回定例会1日目の本会議開会前に、茂木隆議長より表彰状が伝達されました。受賞おめでとうございます。



## 市民の声

市議会の皆さまには、市民が安心して生活できる行政活動に日夜ご尽力いただいていることに、心から感謝申し上げます。

私は農業を営んでおりますが、年々農業をリタイアする農家が増え、受託面積が増え、規模拡大も限界に近づいてきております。基幹作物である米作は、規模拡大しても機械設備の支援も乏しく、設備投資に費用がかかり、利益があまり出ないのが現実です。だからと言って、他作物に切り替えるにも相当の投資が必要です。

秋田県の農産物の生産高はご承知のとおり、東北で最下位です。この一番の原因は、11月から4月にかけての生産作物の少なさが最大の起因と思われまます。雪の多い内陸部は降雪も多く、低温・日照不足のため、土を使つての栽培は困難となり、生産高は落ち込むのは当然であり、雇用にも影響が出ます。

法人を立ち上げますと通年雇用が常態化となり、どうしても秋田の冬を変えなければなりません。雪国で冬期農業を考えた場合、どうしても施設型農業が必須となりますが、設備に多額の投資が必要となり、さらには暖房費問題もあります。これらを解決するには高価格の作物選定と、もみ殻ボイラーの開発で、冬の農業は可能化に結び付くと思います。冬期農業に雇用を取り入れた施設型農業に、さらなるご支援をお願いしたいと思います。



(内小友地区 大槻 四郎)

## 編集後記

田植えが終わり、定例議会が終わり、市政懇談会も終わり、いよいよ夏本番です。定例会では熱い議論が交され、市政懇談会では市民の皆さまと熱く意見を交換しました。その全ての議論の行き着くところが、人口減少・高齢化という地方都市の流れの中で、大仙市という共同体がどう進んでいくのかということにあります。それが避けて通れない道だとすれば、悲観するだけではなく、それを逆手にとり、どうプラスに持っていくかということ、議会も当局も本音で議論し、小手先だけの手法ではなく、従来のやり方をひっくり返すくらいの大胆な市政運営も必要ではないのかと思うこの頃です。

この市議会だよりが市民と議会とのかけ橋として、その一翼を担えれば幸いです。

(委員 橋村 誠 記)

### 広報広聴常任委員会

- 委員長 後藤 健
- 副委員長 高橋 徳久
- 委員 小笠原昌作
- 佐藤 隆盛
- 挽野 利恵
- 佐藤 文子
- 小山 緑郎
- 佐藤 育男
- 古谷 武美
- 橋村 誠

